

けいれん時の対処法

口の中に無理やり割り箸や指など入れたりせずよく観察してください。

- ・ けいれんしていた時間（意識が戻るまでの時間）
- ・ どこがけいれんしているか。眼はどこを向いているか
- ・ 左右差はあるのか

嘔吐している場合は吐物が喉につまらないよう横にしてあげましょう。

初めてのけいれん

2回目以降のけいれん

- ・ けいれんは大抵数分で止まります。
- ・ 10分以上けいれんしているようなら救急車をよぶ
- ・ けいれんが治ったら、必ずかかりつけを受診
かかりつけを受診。（夜などは当番医を受診）

- ・ 10分以上けいれんしているなら救急車をよぶ
- ・ ジアゼパム坐薬がなければかかりつけを受診。
（夜間は当番医を受診）
- ・ 指導されているジアゼパム坐薬があれば使用し
（夜間は意識が戻っていれば受診せず、
翌朝かかりつけを受診。）

ジアゼパム坐薬を使用しているにもかかわらず、24時間以内に2回目の痙攣が起きた場合はすぐにかかりつけを受診しましょう（夜間は当番医を受診しましょう。）

ジアゼパム坐薬（ダイアップ）の予防投与

熱性けいれんを2回目以降起こしたお子さんはジアゼパム坐薬の予防投与を行います。

熱性けいれんは体温が急に上がる発熱初期に起こりやすいと言われています。

37.5℃前後の発熱に気づいたら1個目のジアゼパム坐薬を肛門に挿入します。

さらに38℃以上の発熱が持続する場合は1個目挿入から8時間後に2個目を挿入します。

2回目以降挿入後はさらに発熱が持続しても原則としてそれ以上坐薬を使用する必要はありません。

発熱初期の挿入のタイミングさえ逸しなればほとんどの場合けいれんは予防できます。

坐薬を使用した時間や体温を記録し受診時に提出してください。

解熱剤はどうすれば

体温が急に上がる時に熱性けいれんが起こりやすいため、

できれば使用せず様子を見ます。

どうしても使用する場合には、ジアゼパム坐薬を挿入してから

30分以上あけて使用します。

同時に使用するとジアゼパムの効果が出ない事があります。

